



みんなのできる 地球温暖化防止活動

―ビャッコイ自生地を保全し、推進員活動をしています!!―

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人つくしまNPOネットワーク)

■水生植物ビャッコイ

白河市表郷地域のボランティア活動の事務局長を務める藤田敦子さんは、福島県地球温暖化防止活動推進員の活動にも熱心です。環境省のレッドデータブックで、絶滅危惧Ⅱ類に分類されている水生植物ビャッコイの保全活動に力を入れています。「ビャッコイは、表郷小学校の北側、伏流水が湧き出す通称不動清水と呼ばれる清水の中に自生しています。」1900(明治33)年に当時中学生の鈴木貞治郎さんが発見し、1905年に植物学の牧野富太郎博士によって命名されたといえます。

■推進員になったきつけ

ビャッコイ自生地の保全活動をしている表郷環境ネットワークの活動にも、藤田さんは参加しています。「杉の落ち葉拾いなど環境保全活動を、表郷中学校の生徒さんたちと一緒に取り組んでいます。150名も

の生徒がボランティアで参加してくれました。」ビャッコイは氷河期からの植物といわれ環境変化のバロメーターだといいます。「清水の周りに、今までは見かけなかった藻のようなものが発生していました。」環境変化や気候変動について学ぶために、2018年に福島県地球温暖化防止活動推進員になりました。

■びゃっこい村手作り絵本展

藤田さんが事務局となり昨年12月6日から8日にかけて、第22回びゃっこい村手づくり絵本展を表郷公民館で開催しました。「ビャッコイ命名記念日があります。1955年に福島県指定天然記念物に指定された12月27日です。」表郷ふれあい夏の集いや地元の高校の探求の授業でSDGsを取り上げるなど、多彩な活動をしています。ボランティア活動を地域の人々と行うことで、周りの人たちを活動に巻き込んでいくその姿は、ボランティア活動のお手本です。

■みんなのできる地球温暖化防止活動

白棚線沿線プロジェクト活動もしています。「元鉄路だった路線が高速バスとなりました。公共交通を活用することで二酸化炭素排出も減らすことができます。路線維持のために草刈りなど環境保全活動もしています。」産廃になるおからを活用している金山納豆(伊藤食品)が自慢だといいます。

(Web) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>